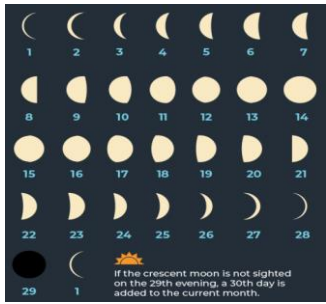


イスラームの五行

宗教上の義務である5つの柱

アラビア語で「アルカン」(柱)とは構造を提供し、所定の位置にしっかりと保持します。「イスラームの5つの柱」は宗教的義務で、人間(ムスリム)の生活に枠組みを提供します。これらの義務は定期的に行なわれ、アッラーへの義務、個人の霊的成長、貧しい人びとへの配慮、自己鍛錬と犠牲が含まれます。イスラームのこれら5つの教義について詳しく説明しましょう。これらの義務はイスラーム暦に従って行なわれます。イスラーム暦は太陰暦であるため、グレゴリオ暦に比べて日が変わります。



イスラーム暦
そして月の名前

イスラーム暦としても知られるヒジュラ暦は、354日または355日の1年を12の月で構成する太陰暦です。これは、毎年恒例の断食や毎年の大巡礼の季節など、イスラームの祝日や儀式の適切な日を決定するために使用されます。各行事はほぼ新月の頃に始まります。イスラーム暦は12カ月で、それぞれが29日間または30日間です。

イスラーム暦の年はグレゴリオ暦の年より11日短いです。

1月-ムハッラム (Muharram)	أَلْفَمْرَم
2月-サファル (Safar)	صَفَر
3月-ラビーウ・アル・アウワル (Rabi' al-Awwal)	رَبِيعُ الْأَوَّل
4月-ラビーウ・アッサーニー (Rabi' al-Thani)	رَبِيعُ الثَّانِي
5月-ジュマダー・アル・ウーラー (Jumada al-Ula)	جُمَادَى الْأُولَى
6月-ジュマダー・アル・アーヒラ (Jumada al-Akhira)	جُمَادَى الْآخِرَة
7月-ラジャブ (Rajab)	رَجَب
8月-シャアバーン (Sha'ban)	شَعْبَان
9月-ラマダーン (断食月) (Ramadan)	رَمَضَان
10月-シャウワール (Shawwal)	شَوَّال
11月-ズー・アル・カアダ (Dhu al-Qa'da)	ذُو الْقَعْدَة
12月-ズー・アル・ヒッジャ (巡礼月) (Dhu al-Hijja)	ذُو الْحِجَّة

1) シャハーダ: 証言: イスラーム五行の第1の柱

シャハーダ(アラビア語: (الشَّهَادَة)) は、イスラームの誓いと信条であり、イスラームの最初で最も重要な柱です。「シャハーダ」はイスラームの信仰宣言であり、自由に、そして確信を持って言う(つまりシャハーダをすると)、人はイスラームの輪に加わり、ムスリム(イスラーム教徒)になります。

← シャハーダ → أَشْهَدُ أَنْ لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ وَأَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ



意味 → 「アッラーの他に神はない(崇拝に値するものはない)と私は証言します。
またムハンマド(アッラーの祝福と平安あれ)はアッラーの使徒であると私は証言します」

- ❖ ムスリムはアッラーの名前を書いたり話したりするとき、アラビア語の「 سبحانه و تعالی سبْحَانَهُ وَ تَعَالَى 」を表す略語「SWT」をその後ろに付けることがよくあります。ムスリムはアッラーの名前に言及するときに、これらの言葉または同様の言葉を使ってアッラーを讃えます。現代の用法では、この略語は「SWT」、「swt」、または「SwT」と表示される場合があります。
- ❖ ムスリムは預言者ムハンマドの名前を書いたり話したりするとき、その名前の後に「PBUH」という略語を付けることがよくあります。これらの文字は英語の「彼の上に平安あれ」を表しています。ムスリムはアッラーの預言者の名前に言及するときに、その預言者敬意を示すためにこれらの言葉を使います。また、同様の意味のアラビア語を表す「SAWS」とも略されます(「サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム」(صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ))

シャハーダの5つの事実

1: イスラームの最初で最も重要な柱

シャハーダはイスラームの5本柱の1つです。ムスリムが生涯を通じて守り、すべての行動と意図を体現するために与えられた証です。

2: イスラームの受容

誰かが宗教としてイスラームに改宗したいと思うとき、シャハーダを唱えることは、その人のイスラームへの入り口、そしてムスリムとして生きる印となります。これはイスラームで最も神聖な声明であり、その意味を十分に理解し、心の同意を持って、正しい目的を持って声に出して暗唱しなければなりません。

3: アザーンでの読誦

シャハーダはアザーンで2回唱えられます（アザーンはすべてのマスジド（礼拝を行う場所）からの毎日の祈りの呼びかけの中で1日5回唱えられます）。

4: 礼拝中の読誦

ムスリムは礼拝でシャハーダを復唱し、1日のうち5つの異なる時間に復唱することが義務付けられています。

5: 新生児への読み聞かせ

シャハーダはムスリムの赤ちゃんがこの世に生まれて最初に聞く言葉として話されます。それらは父親によって子供の右耳にささやかれます。そしてシャハーダがムスリムの死の際の最後の言葉となるでしょう。

イスラーム暦の祝福された日と行事

イスラーム暦には、イスラーム暦に付随する深い暗示を表す非常に重要な日が数多く含まれています。イスラームの初期の歴史におけるそれらの出来事。これらの出来事のほとんどはクルアーンに記載されています。そしてアッラーご自身がその価値を説明しました。

- 1- 金曜日：毎週金曜日、ズフル（正午の礼拝）の祈りの代わりにマスジド（礼拝を行う場所）のみで行なわれます。
- 2- アシューラー：ムハラム（1月）の10日、アシューラーの日とイスラームの多くの預言者の歴史的精神的出来事。
- 3- ラビ・ウル・アッワル（3月）12日：預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）の誕生日。
- 4- ラジュブ（7月）27日：預言者ムハンマドは有名な夜の旅と昇天に乗り出しました。
- 5- シャアバーン（8月）15日：預言者ムハンマドは有名な夜の旅と昇天に乗り出しました。
- 6- ライラトル・カダル：天命の夜。この夜はアッラーが預言者ムハンマドにクルアーンを啓示された夜。
- 7- イード・アル・フィトル：ラマダーン月の断食は断食明けの祭り「イード・アル・フィトル」で終わります。
- 8- イード・アル・アドハー：イスラーム暦の最後の月であるズー・アル・ヒッジャ月10日に、世界中のムスリムが次の場所に旅行します。サウジアラビアのメッカ巡礼を行なう。動物の犠牲（クルバニ）とは、犠牲となる動物を指します。巡礼者ではないムスリムは各地で屠畜を行なうことができます。

このイスラームの祝日リストがお役に立てば幸いです。ムスリムとして、この祝福の日に礼拝を計画するためのスケジュールを立て、すべての活動を放棄する必要があります。

2) サラート(礼拝) صلاة: イスラーム五行の第2の柱



礼拝は特別な礼拝形式であり、シャハーダ(信仰証言)に次いで2番目に重要なイスラームの柱です。アッラーの最も愛する者、アッラーの使徒(アッラーの祝福と平安あれ)がイスラーとミイラージュ(夜の旅と昇天)でアッラーを訪問したとき、アッラーが彼に与えた贈り物の1つは礼拝でした。アラビア語の「サラート」という単語は、「接続」、「リンク」、または「コミュニケーション」を意味する語根「サラー」に由来しています。したがって、「サラート」という言葉は文字通り、儀式的な礼拝の行為を通じたアッラーとの結びつきまたはつながりを意味します。

毎日の礼拝はムスリムの生活の試金石です。イスラームでは、礼拝は仲介者や取り次ぎなしに、アッラーだけに直接に捧げられます。ムスリムは毎日5回、心を礼拝に向けるために時間をとります。立ったり、お辞儀をしたり、座ったり、ひれ伏したりする礼拝の動作は、創造主の前での謙虚さを表します。礼拝の言葉には、アッラーへの賛美や感謝の言葉、クルアーンの一節、個人的な嘆願などが含まれます。

礼拝はムスリムのライフスタイルに欠かせないものです。ムスリムは礼拝を通して、クルアーンの章節、シャハーダ(信仰告白)、アッラーの美名について毎日深く考えることが求められています。世界中のムスリムは、毎日5回の指定された時間に、メッカの方角に向かって集団礼拝します。メッカのカアバ殿は、アッラーとつながり、人生の目的とつながります。つまりアッラーを思い出し、アッラーとつながる手段として礼拝が行なわれます。礼拝が食べ物や水と同じようにあなたの人生の一部なのです。

アル・イスラー・ワル・ミイラージュの出来事とは何か？

本当にあったアル・イスラー・ワル・ミイラージュ — 夜の旅と昇天

ラジュブ月(イスラーム暦の7月)27日、預言者ムハンマドが体験した夜の旅と昇天のことです。この出来事は、ムハンマドがメッカからエルサレムのマスジド・アル・アクサーまで一晩で旅をし、昇天したという奇跡でした。イスラーは、メッカからマスジド・アル・アクサーまでの夜の旅です。ミイラージュは、マスジド・アル・アクサーから天国への旅です。ラジャブ月(イスラーム暦の7月)27日の夜は、最愛の預言者が有名な夜の旅と昇天(アル・イスラー・ワル・ミイラージュ)をした夜であると信じられています。

アル・イスラー・ワル・ミイラージュの背景:

この出来事は、預言者が最愛の妻ハディージャと最愛の叔父アブー・ターリブを失ったことにより、個人的な悲しみだけでなく、激しい心の痛みと困難の時期に直面していたときに起こりました。さらに、彼はイスラームとタウヒードの教えを広め、そこに住む部族にダッワ(イスラーム教の為の布教活動)をするためにメッカ近くの都市ターイフへ旅しました。彼らは預言者を歓迎する代わりに、彼をあからさまに非難し、信仰を受け入るようという預言者の招待を拒否しました。彼らは預言者が帰る時も、少年たちを送り込んで彼をさらに苦しめ、彼に石を投げつけ、彼を嘲笑し、ヤシの木の避難所に避難させなければならぬほどでした。したがって、これらは、夜の旅に先行する出来事であり、すべての慈愛に満ちた存在であるアッラーは、かれの最愛の人(預言者)を天に呼び、彼をなだめ、究極の祝福と報酬を与えるだけでなく、1日5回の礼拝とイスラームの信者に多くの吉報を与えました。そこには7つの天国の美しさ、そして最も強力で全能のアッラーの玉座の超越的な眺めがありました。

※全能のアッラーは男でも女でもないため、ひらがなで「かれ」と表しています。

第1段階:イスラー(夜の旅)

一般的にアル・イスラーまたは夜の旅として知られる旅は、預言者のいとこであるウム・ハーニーの家から始まり、エルサレムのアル・アクサー・マスジドで終わりました。預言者は、彼が眠っているときに3人の天使がやって来て彼を起こし、カアバ殿に連れていったと述べています。ここで彼の心臓はザムザムの水(メッカにあるカアバ殿の近くの聖なる泉で洗われ、取り替えられ、これから始めようとしていた旅の計り知れない重荷に耐えられるようになりました。次に彼は「ブラク」と呼ばれる馬に乗らされましたが、この馬は足の速い生き物で、あっという間に預言者はエルサレムのマスジド・アル・アクサーに到着しました。これは今日では想像するのがそれほど難しいことではありません。私たちは高速のジェット機、電車、その他の交通手段を持っているので、人びとが旅のこの部分を受け入れる可能性が高いです。それにもかかわらず、旅行全体が徒歩ラクダで行なわれていた当時、徒歩またはラクダで数か月かかる旅が、一晚未満の短い期間で実行できるということは、非常に理解しにくいことでした。だから、当時のクライシュ族の不信者の多くは預言者を嘲笑し、公然と信仰を拒否しました。彼らは預言者に嘲笑的に尋ね、もし彼がそこを訪れたのなら、彼の主張に従ってアル・アクサー・マスジドについて彼らに詳しく説明するべきだと挑戦さえしました。その時、全能の神アッラーは最愛の使者に明確なビジョンを示し、まるで目の前ではっきりと見ているかのようにアル・アクサーの建築全体を描写しました。しかし、非信者たちは依然として信じないことを選択しました。この旅の間、預言者はまた、アッラーの使徒ムーサーが墓の中で祈っているのを見ました。アル・アクサーの大モスクに到着すると、預言者はさらに、すべての預言者たちの礼拝を先導する栄誉を与えられました。

第2段階:ミイラージュ(昇天)

この第2段階、つまり7つの天への昇天、そしてその後のシドラの木と全能者アッラーの玉座への最終的な昇天は、ハディースにおける預言者の物語に基づいています。一方、最初の部分はクルアーンの証拠に基づいています。したがって、第2の部分は、第1の部分に比べて信じがたいものでした。イマーム・アル・ブハーリーの真正ハディースで語られているように、預言者は天使ジブリールによって7つの天に連れて行かれました。各天では、かれに先立ってさまざまな預言者や使徒の歓迎と会合によって栄誉を与えられました。第七の天国で、かれは預言者イブラーヒームに会いました。それからかれはさらに続けて、天国と、怒りと悲惨を伴う地獄、そこで苦しんでいる人びとのさまざまな状態を見ました。最後に、預言者は、天使ジブリールですら進むことができなかつたさらなる高みへ、たった1人で超越されました。この栄誉は預言者だけに与えられました。ここでかれは、礼拝の命令と、威厳あるアッラーを見るという祝福された報酬を与えられました。礼拝は最終的に1日5回に減りましたが、もともとは50回の礼拝が命じられました。そして5回でも50回分の礼拝として報われることになったのです。その後、預言者はメッカの住居に戻されました。彼がベッドの上の場所に戻ると、まるで今まで誰かがそこにいたかのようにまだ暖かく、ドアの掛け金がまだ動いているような状態でした。

7種類の礼拝

礼拝の身体的効用

礼拝には、立ったり、お辞儀をしたり、ひれ伏したり、座ったりするなど、さまざまな身体動作が含まれます。礼拝の動きは柔軟性と全体的な筋力を強化します。これにより、特に大きな筋肉群に適度な運動が行なわれ、健康と幸福が促進されます。身体活動は優れた運動であるだけでなく、日常的動作の単調さを解消します。

1ー 1日5回の礼拝: アッラーは、すべてのムスリムに毎日5回の祈りを義務付けています。

2ー ジュムア礼拝: 毎週金曜日には、ズフル礼拝の代わりに、特別なジュムア礼拝があります。ジュムア礼拝は、イマーム(指導者)のいるマスジドで行われるべきです。義務の説法(フトゥバ)を聞くこと。男性はマスジドで常にジュムア礼拝を行なう必要があります。イスラームの最も重要な祝日の1つです。

3ー イード・アル・フィトルの礼拝: イード・アル・フィトルはラマダーン月の終わりに行なわれ、「断食月明けの祭り」と訳されます。ラマダーンと同様に、それは最初の新月の観察から始まります。

4ー イード・アル・アドハーの礼拝: イード・アル・アドハーは文字通り「犠牲祭」を意味します。それは、毎年メッカ巡礼の宗教的儀式的最高潮を表します。イスラーム暦の第12月であるズー・アル・ヒジャ月の10日、イード・アル・アドハーは、アッラーの命令への従順の行為として息子を犠牲に捧げたイブラーヒーム(アブラハム)の意志を称えます。

5ー サラート・アル・ジャーナーザ: イスラームを信仰する人が亡くなると、地域社会のムスリムが集まり、故人の赦しを求める礼拝を捧げます。この葬儀の礼拝は、サラート・アル・ジャーナーザまたはジャーナーザの礼拝と呼ばれます。遺体は丁寧に香りのよいきれいな水で洗われ、カフタン、つまり清潔な白い埋葬布に包まれます。これは葬儀の礼拝の前に行なわれます。

6ー タハジュド礼拝: タハジュド礼拝は、ナフルまたは自発的な礼拝です。タハジュド礼拝はアラビア語で「h-j-d」に由来し、夜に目覚めること、睡眠を放棄することを意味します。したがって、それは夜の礼拝としても知られています。イシャー礼拝とファジュル礼拝の間にタハジュド礼拝を行なわなければならないため、礼拝のために夜起きなければなりません。この礼拝はクルアーンや預言者(アッラーの祝福と平安あれ)によって言及されているため、非常に有益です。

7ー サラート・アル・イシュラク: イシュラク礼拝は、太陽が昇った後(日の出から約20分後)に礼拝を捧げるナフル礼拝です。他の人はそれをドゥハー礼拝とも呼んでいます。この礼拝を行なうことは、罪の赦しを求めるのに効果的であると考えられています。

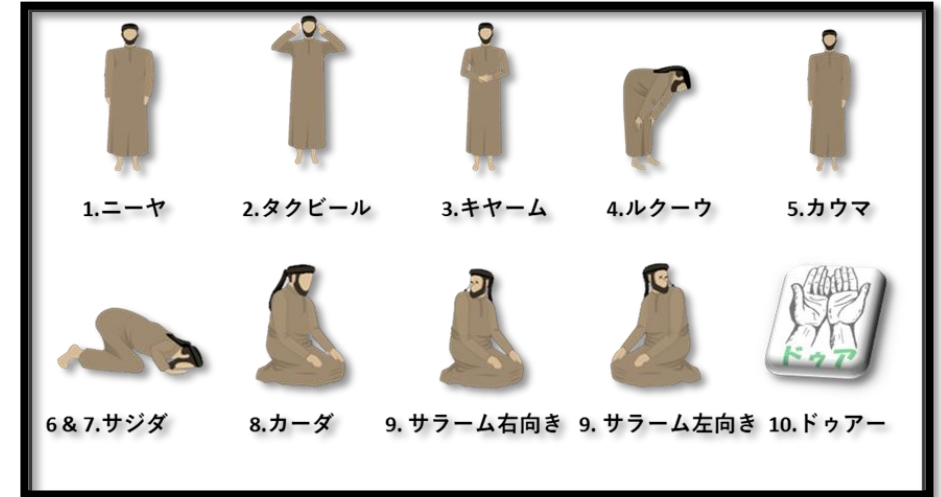
- ❖ アザーンはイスラームの礼拝の呼びかけとしても知られ、イスラームの礼拝に不可欠な強力かつ神聖な伝統です。
- ❖ アザーン(礼拝への呼びかけ)は、礼拝時間の始まりを告げるアナウンスです。つまり、マスジドから呼びかけをして、人びとに礼拝の時間が来たことを知らせます。
- ❖ アザーンは、母国語が何であろうと、アラビア語のみで呼びかけます。

繰り返し回数	アラビア語	発音	翻訳と解説
4	الله أكبر	アッラーフ・アクバル	「アッラーは偉大なり」(4回) (この句はタクビールと呼ばれる。宗派によっては4回でなく2回)
2	أشهد أن لا اله إلا الله	アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イツラッラー	「アッラーの他に神はなしと私は証言する」(2回)(この句はシャハーダと呼ばれる)
2	أشهد أن محمداً رسول الله	アシュハド・アンナ・ムハンマダン・ラスールッラー	「ムハンマドはアッラーの使徒と私は証言する」(2回)(この句もシャハーダと呼ばれる。上の句と合わせてシャハーダタインと呼ばれる)
2	حي على الصلاة	ハイヤー・アラッサラ	「サラート(礼拝)へ来たれ」(2回)(この句はハイアラと呼ばれる)
2	حي على الفلاح	ハイヤー・アラルファラー	「成功(幸福)へ来たれ」(2回)(この句もハイアラと呼ばれる。上の句と合わせてハイアラターニと呼ばれる)
(早朝のみ) 2	الصلاة خيرٌ من النوم	アッサラート・ハイルン・ミナン・ナウム	「礼拝は睡眠にまさる」(2回)(早朝の礼拝時のみ、タスウィーブと呼ばれる句が2回入る)
2	الله أكبر	アッラーフ・アクバル	「アッラーは偉大なり」(2回)(タクビール)
1	لا إله إلا الله	ラー・イラーハ・イツラッラー	「アッラーの他に神はなし」(この句はタフリールと呼ばれる)

礼拝の名称と時間帯

名称	時間帯	スンナ	ファルドウ (義務)	スンナ	ナフル	ウイトル (義務)	ナフル
(فجر) ファジュル	夜明けの少し前	2ラカート	2ラカート	—	—	—	—
(ظهر) ズフル	日が下がり始めた頃(正午過ぎ)からアスルまで	4ラカート	4ラカート	2ラカート	2ラカート	—	—
(عصر) アスル	影が自分の身長と同じ(又は2倍)になってから日没まで	4ラカート	4ラカート	—	—	—	—
(مغرب) マグリブ	日没から日がなくなるまで	—	3ラカート	2ラカート	2ラカート	—	—
(晩) イシャー	夜寝る前又はファジュルなる前	4ラカート	4ラカート	2ラカート	2ラカート	3ラカート	2ラカート
صلوة الجمعة ジユムア	マスジドでイマームの後ろで	4ラカート	クツバを聞く後2ラカート(イマームの後ろで)	4ラカートと2ラカート	2ラカート	—	—

ムスリムの祈りのステップ



礼拝の作法

毎日の礼拝を行なう前の5つの重要なチェックリスト

ステップ 1 - ウドゥーをします。

ステップ 2 - アッラーが定めた時間に礼拝をすることは非常に重要です。
5回の義務礼拝のそれぞれに特定の時間が設定されています。

ステップ 3 - 適切な服装をします。

ステップ 4 - 清潔な礼拝の場所を見つけます。

ステップ 5 - キブラの方角(メッカ)に向きます。

イスラームには4つの異なる種類のサラートがあります。

- 1- ファルド(義務の礼拝) : ファルド(義務)礼拝。ムスリムは1日に5回祈らなければなりません。義務的な礼拝はアラビア語でファルドと呼ばれます。礼拝の各単位はラカアと呼ばれます。
- 2- ワージブ(必須の礼拝) : ワージブの礼拝は必須であり、それを怠ることは罪とみなされます。ただし、意図せずワージブの礼拝を忘れた人は、それをカダーとしてやり直す必要はありません。カダーとは、見逃した礼拝を補完することを意味します。
- 3- スンナの礼拝 : 「スンナ」という言葉は一般に預言者(彼に平安と祝福がありますように)の模範または実践を意味します。私たちがスンナ礼拝について話すとき、ファルド(義務)礼拝に加えて預言者が祈った推奨される礼拝を意味します。
- 4- ナフルの礼拝 : ムスリムは、ファルドとスンナとは別に、追加の礼拝もできます。これらはナワーフィル礼拝またはナフル礼拝と呼ばれます。これらは追加的な礼拝です。自発的にナワーフィル礼拝を捧げる人は、アッラーのご好意の恩恵を受けます。

3) ザカート(定めの施し) زكاة : イスラーム五行の第3の柱

ムスリムは毎年、ザカートとして知られる定めの施しを義務付けられています。

ザカートは、富が十分な、または十分以上の余裕があることを示す値(アラビア語でニサブと呼ばれる)を超えているムスリムに対し、アッラーが金と財産を毎年支払うことを義務付けている慈善行為です。年率2.5%の税率が義務付けられています。その支払いは、アッラーが確立された権利として、貧しい人びと、弱い立場にある人びと、そしてそれに値する人びとに対して行なわれます。

ザカートは義務的な税金ともみなされます。

イスラームの第3の柱であり経済的な崇拝行為であるザカートは、より公平な社会、ひいては世界を築く鍵となります。ザカートは貧しい人びとを助け、人びとに必要なサービスを提供する福祉プログラムと考えられています。それは人類にとって何が最善かを知る全知者アッラーから命令です。

ザカートには決まった支払い日はありません。しかし、多くの場合、余剰財産の計算が行なわれた後、年末に支払われます。一部のムスリムは、ラマダーン月中にザカートを支払うと幸運がもたらされると信じています。

ザカートを支払うメリット

ザカートという用語は、アラビア語のザカー زكاة という言葉に由来しており、これには「浄化/清潔」と「強化/増加」という2つの意味があります。したがって、ムスリムが義務のザカートを捧げるとき、彼らは実際にはお金を失うのではなく、むしろ自分たちの富と収入を浄化し、増やすこととなります。ムスリムは、ザカートを支払うことで残りの富が浄化され、増加し、祝福されると信じています。イスラームの規則によれば、お清めが体を清め、礼拝が魂を清めるのと同じように、ザカートは所有物を清め、神に喜ばれるものにするのです。

誰がザカートを支払い、どのように計算するのですか？

誰かの富と貯蓄がニサブ(基準)に達した場合、ザカートを支払う義務があります。大多数のイスラーム学者によると、ニサブは金85グラムまたは銀595グラムに相当します。しかし、最近の私たちの貯蓄は現金なので、所有している現金の価値に基づいて計算します。富は、物理的なお金の貯蓄、金、銀、株式、農産物、投資、貿易、余剰財産などを含む多くのカテゴリーに分類されます。ザカートは年に1回(太陰暦に基づいて)支払われ、その額はその人の余剰財産のわずか年率2.5%です。あなたの経済状況に基づいて正しく計算をするために、あなたの地元のイスラーム学者に相談することを強くお勧めします。

ハディース(預言者ムハンマドの言行録)、ザカートを支払わない人たち

ハディースはザカートを与えない人を戒めています。ハディースによれば、支払いを拒否したり、ザカートを支払う人を嘲笑したりすることは偽善のしるしであり、アッラーはそのような人びとの祈りを受け入れないでしょう。スンナは、ザカートの支払いを拒否したり支払わなかった者に対するアッラーの罰についても説明しています。審判の日、ザカートを渡さなかった者は責任を問われ、罰せられることになります。

ザカートを受け取る資格があるのは誰ですか？

イスラーム法(シャリーア)では、ザカート・アル・フィトル(断食明けのザカート)やザカート・アル・マール(断食月の最後に払うザカート)やサダカ(慈善)は裕福なムスリムから取り上げられ、貧しいムスリムに与えられるべきであるため、ノンムスリムには与えられないことが知られている。ザカートは、貧しい人びとと困窮している人びと、そしてザカートを管理している人びと、心がイスラームに近づいた人びと(新しいムスリム)、奴隷を解放し、借金を背負っている人びとを助け、アッラーの道のため、旅人のためだけです。これはアッラーからの義務です。アッラーは全知にして英明です。ザカートは、貧しい人びとを支援し援助する権利を確立しています。

ザカートは特定の人たち以外には与えられるべきではありません

条件に該当する場合は、個人的に知っている人にザカートを贈ることができます。または、すべてのマスジド/イスラーム施設でザカートの箱を見つけることができます。一方、ザカートはマスジドの建設と経費に費やすことは認められません。ザカートは自分の両親、祖父母、子供、孫、配偶者、またはムハンマドの子孫に与えられるべきではありません。

ザカート・アル・フィトル(フィトラーナ)、必修

ラマダンの断食月の完了を祝う断食明けのザカートであるザカート・アル・フィトルは、年齢に関係なくすべてのイスラーム教徒に義務付けられている小規模な慈善団体であり、ラマダン月に世帯の各メンバーが全員で支払います。ザカート・アル・フィトルを集めているモスクやイスラーム団体は、特にイード・アル・フィトルのお祝いの日には彼らを幸せにするために、貧しい人や困っている人々にそのお金を分配しなければなりません。イードの祈りの前に支払わなければなりません。この慈善活動の金額は、通常、ザカートが贈られる地域の穀物 1 サーア = 3 キログラムに等しい平均価格です。あなたの地元のイスラーム学者に相談することを強くお勧めします。現在の穀物の割合について正確な答えをくれるでしょう。

イスラームにおけるその他の重要な施し

イスラームにおけるサダカ(慈善)

イスラームはまた、サダカ、つまり自発的な慈善活動を行う必要があります。

ザカートはイスラーム暦の特定の時期に、富の種類に応じて特定の割合で義務的に与えられることになっています。ただし、サダカは、いつでも、どんな量でも与えることができます。

義務的ではない/自発的なサダカ(慈善/寄付)は、この世でも来世でも高い報酬をもたらします。たとえあなたが低所得者で、貴重な善行を得たいと思っている場合でも、それはサダカを与える機会です(義務的なザカートの寄付が免除されているため)。イスラームでは、サダカはお金だけではなく、自分の時間を寄付すること、何らかの方法で他人を助けること、他人を教育すること、他人の話を聞くこと、他人を慰めること、さらには他人に微笑むことなど、他の方法でも慈善はできます。あなたにとって1円を与えることは何でもないかもしれませんが、アッラーの御元ではそれは非常に価値が高いものであることを知っておく必要があります。

サダカの利点

サダカを与えることの利点は他にもたくさんあります。

サダカは病気の治癒を助け、死を回避します。

サダカは困難を和らげ、災いを取り除きます。

サダカは、この世と来世への投資です。

サダカは罪を償う。

サダカは天国の門の1つです。

サダカは審判の日にあなたの影となるでしょう。

アッラーが私たちがザカートとサダカを与える人びとの1人に加えてくださいますように。アーミン



4) サウム(断食) صوم: イスラーム五行の第4の柱



イスラームの第4の柱は、世界中のムスリムにとって断食を義務付けています。イスラーム暦(太陰暦)の9番目であるラマダーン月は、健康で能力のあるムスリムが日中は飲食を控えなければならない時期です。断食はファジル(夜明け)前からマグリブ(日没)まで行なわれ、ファジル礼拝のアザーンが呼ばれる数分前に断食を開始し、毎日この期間中、信者は飲食、性行為、喫煙を禁止することが求められます。ただし、日没後(マグリブ礼拝のアザーンが鳴るとき)や夜明け前は、個人の希望で飲食や性行為をすることができます。

ラマダーン期間中に断食を行なう理由は、すべての人が同様に困窮していることをムスリムに思い出させるためです。ラマダーンは、ムスリムが信仰を再充電し、慈善活動を強化し、改心するよう求められる反省の期間です。それは、クルアーンを含め、アッラーが与えてくださったすべてのものに対する感謝の気持ちを体現しています。それは、信者が恵まれない人びとの渇きと飢えを共有するのに役立ち、彼らを助けるという自分たちの義務を認識させます。

ムスリムはまた、暴力、怒り、妬み、強欲、欲望、冒瀆的な言葉、無駄話を控え、イスラームの教えに従うことに一層の努力を払い、同じムスリムとより仲良くなるように努めることが期待されています。さらに、わいせつで非宗教的なものやことはすべて避けるべきです。

断食は意志の力を養い、忍耐の術を教えてくれます。それはアッラーへの従順を養い、欲望をコントロールするのに役立ちます。ラマダーンは、信者にとって全能のアッラーの完全な献身に身を委ねる機会です。また、ラマダーンは楽しい月でもあります。ムスリムは日没とともに特別な食事であるイフタルで断食を明け、夕方の礼拝の後に追加の夜行礼拝であるタラウィーフ礼拝を行ないます。そして町はお祭り気分が集団的な雰囲気溢れています。

タラウィーフの祈り(アラビア語 تراويح)

タラウィーフという名前は、「休息とリラクゼーション」を意味するアラビア語の「タラウィ」に由来しています。タラウィーフの礼拝はムスリムにとって特別な礼拝です。ラマダーン月のみに行ないます。これは預言者のスンナ(アッラーの祝福と平安あれ)であり、ムスリムも同様に実行することが奨励されています。



タラウィーフは、ラマダーン期間中の毎晩、夜のイシャー礼拝の後に行なわれる自発的な礼拝です。とてもオススメのスンナですので、世界中のマスジドでは、この祝福された月の毎晩、男女を対象としたタラウィーフ集団礼拝が行なわれています。ほとんどのマスジドは伝統的にラマダーン期間中にクルアーンを全て読誦し、タラウィーフの夜に毎晩1 Juzを完了します。ただし、タラウィーフの期間中はクルアーンの好きな部分を読誦することができます。

タラウィーフの報酬は何ですか？

タラウィーフ礼拝は推奨されるスンナであり、キヤーム・アル・ライル(深夜礼拝)の1つです。ラマダーン中に信仰と報酬を期待してタラウィーフ礼拝をする人は誰でも、彼の過去の罪は赦されます。

ライラトル・カドルとは何ですか？

ラマダーン期間中はライラトル・カドルがあります。別名「力の夜」として知られ、イスラーム暦で最も神聖な夜と考えられています。この夜、天使ジブリールはクルアーン最初の節を預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安あれ）に明らかにしました。この夜はラマダーンの最後の10日間にあたります。しかし正確な日付は不明です。ライラトル・カドルは、ラマダーン期間の最後の5つの奇数の夜（21日、23日、25日、27日、または29日）にあることがわかっており、夜が昼に先立ちます。

ライラトル・カドルの報酬

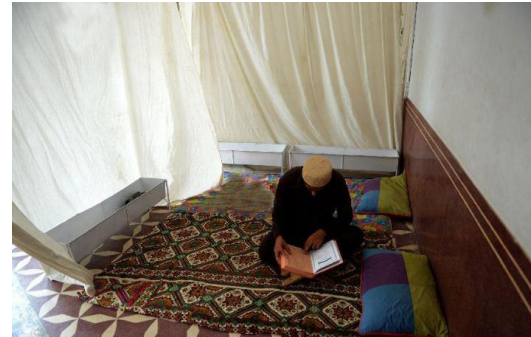
クルアーンには、この夜が1000月よりも素晴らしい夜であると記載されており、この夜に天使が地上に降りてくると述べられています。アッラーの慈悲と祝福は豊かであり、天国の門は開かれています。それは赦しの夜です。その時間を礼拝に費やす人は誰でも莫大な報酬を得ます。したがって、世界中のムスリムはこの夜に祈り、クルアーンを読誦し、祈願をして過ごします。ライラトル・カドルは、誠実かつ忠実に愛し従う信者たちにアッラーが慈悲を注ぐ大いなる祝福の夜なのです。



力の夜

イッティカーフとは？

イッティカーフの様子
(マスジドでのお籠もり)



イッティカーフとは、ラマダーン月の最後の10日間、アッラーへの崇拝だけに時間を捧げる目的で、マスジドに隔離されることを意味します。イッティカーフする人がマスジドから出ることは許されません。マスジドではイッティカーフは男性専用です。イッティカーフはスンナ（推奨）行為です。世俗的な会話はできるだけ避け、家族との会話は許容範囲内にします。

イッティカーフの報酬

イッティカーフの基本的な目的は、心をアッラーに結び付け、それによって内なる落ち着きと平穏を獲得することです。人生のありふれた煩惱から離れ、すべての恐れ、希望、不安がアッラーの愛と記憶に取って代わられる状態に達します。あらゆる不安はアッラーを意識することによって変わります。あらゆる思考や感情は、主に近づき、主の好意を得たいという熱意と混ざり合い、現世への献身ではなく全能者への献身が生まれます。これは、友人も協力者もない死に対する準備です。これがイッティカーフの崇高な目的であり、ラマダーンの最も崇高な時期、つまり最後の10日間であり、イッティカーフでライラトル・カドルを見つけることは素晴らしい崇拝行為となるのです。



イード・アル・フィトル(断食月明けの祭り)

ラマダーンの断食は「イード・アル・フィトル」(断食月明けの祭り)で終わります。ラマダーンの終わりは、イード・アル・フィトルと呼ばれる断食明けの祝日である3日間のお祝いに見られます。慣例的には、この日は家族が集まる時期であり、子供たちにとっては新しい服や贈り物を受け取る好ましい休日です。ラマダーンには、クルアーンがラマダーン月に啓示されたというもう1つの意味があります。また、ムスリムはザカート・アル・フィトルを支払います。それはイード礼拝の前に支払われるべきです。

複数の人に対して断食は禁止もしくは免除になります。

ラマダーン期間中の断食は義務ですが、危険で過度に問題を引き起こすいくつかの人びとには禁止されています。これらには、思春期前の子供、糖尿病などの病状のある人、高齢者、妊娠中または授乳中の女性などが含まれます。生理中の女性には断食を行なうことは許可されておらず、断食は免除されています。断食しなくてもよいと考えられる他の人は、病気の人や旅行中の人です。正確な要件は状況によって異なりますが、通常、断食をできなかった日数分はすぐに埋め合わせをする必要があります。

任意の断食

ムスリムは、義務ではありませんが、次のようなことが奨励されています。月曜と木曜の断食です。可能であれば、太陰月またはイスラーム月のシャワール月のいずれか6日間が望ましいです。例えば、各太陰月(イスラーム暦)の13日、14日、15日、アラファの日(イスラーム暦のズーアル・ヒジヤ月の9日)です。ラジャブ月にはできるだけ、そしてラマダーン月前のシャアバーン月。イスラーム暦のズー・アル・ヒジヤ月の最初の9日間。ただしハッジ(巡礼)を行なっている人は対象外です。ムハッラム月の9日目と10日目(アシューラー)。

断食が禁じられる日

イスラームでは断食は敬虔な行為とみなされていますが、大多数のスニ派学者によれば、イード・アル・フィトルとイード・アル・アドハーとその翌日の3日間は、断食が禁止(または推奨されない)とみなされます。なぜなら、なぜなら、ムハンマドが「それらの日は断食をしてはいけません。食べたり飲んだりしてアッラーを思い出さず日だ」と言ったからです。また、毎週金曜日の断食も禁じられており、ムハンマドは「確かに、金曜日はあなたの方にとってイード(休日)なので、断食してはいけません」と言いました。前日か翌日に連続して断食していない限り、断食をしてはいけません。クルアーンには、断食の日に関して他の禁止事項は含まれていません。

5) ハッジ(メッカ大巡礼) حَجّ : イスラーム五行の第5の柱

メッカ大巡礼は、預言者イブラーヒームの出来事から始まります。イスラームの5番目の柱であり、すべてのムスリムに一生に一度は義務付けられています。サウジアラビアのメッカにある「アッラーの家」マスジド・アル・ハラームとカアバ殿を一生に一度は訪れるのは、身体的にも大変な旅です。

経済的かつ身体的に可能なすべてのムスリムはハッジ(メッカ巡礼)を行ない、時間通りにすべての手順を完了する必要があります。ムスリムとしてメッカ巡礼を行なうことは、経済的、肉体的、精神的に可能な限り、精神的な義務です。ムスリムは、これが過去の罪を清算し、アッラーの前で新たにスタートするチャンスだと信じています。巡礼者は巡礼によって信仰心を深めるのです。

メッカ大巡礼の日付は、太陰暦に基づいたイスラーム暦(ヒジュラ暦またはAHとして知られています)によって決定されます(太陰暦は、月の満ち欠けの毎月の周期に基づいた暦です)。毎年、メッカ大巡礼の行事は、イスラーム暦の最後の月であるズー・アル・ヒッジャ月の8日に始まり、13日に終わる6日間で行われます。この期間中、9日目のズー・アル・ヒッジャ月はアラファの日として知られ、この日はハッジの日とも呼ばれます。イスラーム暦は太陰暦であり、イスラーム暦はグレゴリオ暦より約11日短いため、メッカ大巡礼のグレゴリオ暦の日付は年によって変わります。

世界中からムスリムがサウジアラビアのメッカを訪れます。聖地に到着する前に、ムスリムは世俗的な衣服を脱いで、イフラーームとして知られる献身(禁忌)の状態に入ります。

巡礼者の質素な服装をします。男性は継ぎ目のない白い布2枚を着け、女性はシンプルな白いドレスとスカーフを身につけます。同じような白い衣服はアッラーの前での人間の平等と団結を象徴します。

巡礼者にとって、お金や地位はもはや重要ではありません。アッラーの目から見て各人の平等が最も重要になります。

ムスリムがメッカへ旅行した後、その人は「ハッジ」(メッカ巡礼した人)として知られます。



預言者イブラーヒームの出来事とメッカ巡礼：

メッカ巡礼の歴史は、預言者イブラーヒームの出来事とアッラーの命令に始まります。それはメッカの不毛の砂漠に、妻のハージャルと幼い息子イスマーイールを残して、ナツメヤシと水の入ったビンその他は、何も残さないというアッラーの命令です。かれらはアッラーの命令に従いました。

ザムザムの泉：

この不毛の地でしばらく過ごした後、ナツメヤシと水が尽きてしまいました。幼いイスマーイールが喉の渇きで泣き始めると、ハージャルは水を探し始めました。彼女はサファとマルワの丘を7回上り下りしました（それが、カアバ殿を7回周礼することがウムラとメッカ巡礼の両方の重要な儀式である理由です）。このイライラした状態で、若いイスマーイールは地面を蹴り始めました。突然、ハージャルはイスマーイールが蹴った場所から水が流れ出ていることに気づきました。彼女は自分のために慎重に水を集め、イスマーイールに与え始めました。湧き出た水はザムザムの恵みの水と呼ばれるようになりました。

やがて、通りかかった商人たちが谷に立ち寄り、ハージャルにラクダに水をあげる許可を求めました。やがて商人たちはこの小さな谷に定住することを決め、最終的に入植地はメッカ市に成長しました。イブラーヒームは時々訪問し、イスマーイールが約13歳のとき、かれとイスマーイールはアッラーを崇拝するための場所として、空洞の立方体形の建物であるカアバ殿を建設しました。最終的に、2500年後の預言者ムハンマドの時代までに、メッカは重要な交易地になりました。

ザムザムの泉はムスリムにとって祝福された聖水と信じられています。この水の水源は、サウジアラビアのメッカにあるマスジド・アル・ハラーム内にあるザムザム井戸です。井戸はイスラームの最も聖地として知られるカアバ殿の東20メートルに位置する。ザムザムの泉の歴史はその利点と同じくらい興味深いものであり、両方ともその宗教的重要性を再強調しています。



犠牲:

数年後、イブラーヒームは最愛の妻と息子イスマーイールと再会するために戻ってきました。到着して間もなく、イブラーヒームは夢を見ました。その夢により、アッラーはかれに息子を犠牲にすることを明らかにしました。もちろん、これは極端な試練でもあります。イブラーヒームと息子のイスマーイールは喜んで応じます。イブラーヒームは息子を山に連れて行き、目隠しをされた息子を岩の上に置きます。しかし、イブラーヒームが犠牲を捧げようとしたそのとき、アッラーはナイフで首を切らないようにと命じ、イブラーヒームに試練に合格したことを説明しました。犠牲と引き換えに羊が持ち込まれました。これがムスリムがズー・アル・ヒジヤ月3日間であるメッカ巡礼の最後に行なう動物の犠牲屠畜の基礎を形成することになります。

数年が経過し、イスマーイールが青年に達すると、アッラーは息子とともにイブラーヒームに地上のアッラーの家であるカアバ殿を建設するよう命じます。この記念碑的な任務が完了すると、アッラーはイブラーヒームに対し、人びとにメッカ巡礼を行なうよう呼びかけるよう命じられます。ここはまだ砂漠の真ん中であり、この時メッカはまだ非常に小さな町であることに留意が必要です。そして再び、イブラーヒームはアッラーへの純粋な従順によって、使命を果たし、人びとをイスラームへと呼びかけます。

伝説:

今日、イブラーヒームの呼びかけはまさに応えられ、イブラーヒームの誠実さとアッラーへの従順の成果が実りました。毎年、何百万人もの人びとが世界の隅々からアッラーの家を訪れ、イブラーヒームの足跡をたどります。しかし、物語はそこで終わりません。なぜなら、イブラーヒームが自分で巡礼しているときに、サタン(悪魔)が近づいてきたからです。サタンは人類にとって公然の敵であり、人類の巡礼を腐敗させようとしています。

しかし、イブラーヒームはサタンに反抗して石を投げつけ、サタンを打ち負かします。この出来事はメッカ巡礼のラミー(投石の儀式)に具現化されており、ムスリムが同じ地域に石を投げつけることによって象徴的にサタンを追い払います。

イブラーヒームの人生におけるこれらの重要な出来事は、後にマナーシク、つまりメッカ巡礼の儀式となりました。何らかの形で、メッカ巡礼が実際にはイブラーヒームの生涯を祝い、彼の道を体現したものであることがわかります。

アッラーはクルアーンの信者に、何度も次のように命じています。「正しい者イブラーヒームの信仰に従いなさい」 **اَتَّبِعْ مِلَّةَ إِبْرَاهِيمَ حَنِيفًا**。(クルアーン16章123節)

メッカ巡礼はあなたの人生を盛り上げ、アッラーに身を委ねて生きることができるように準備を整えます。

イブラーヒームとその家族、そして高貴な使徒ムハンマドにアッラーの祝福と平安がありますように。

メッカ大巡礼の手順:

巡礼者は、メッカの主要な境界点にある指定されたミカートを通過する前に、体を清め、所定の服装(イフラム)を着用し、巡礼の意志を表明した後、禁忌の状態に入らなければなりません。

メッカに到着すると、巡礼者は最初のタワーフを実行します。これは、カアバ殿の周囲を反時計回りに7回の円形の行列です。その間ずっと、彼らは「ラッバイカ・アッラーフンマ・ラッバイク」と述べており、これは「神よ、私はここにいます！」という意味です。それは、アッラーの栄光を称え、ドゥアー(祈願)を繰り返し、アッラーに悔い改め、そして赦しを求めることから成ります。タワーフは、ムスリムの意識を呼び覚ますことを目的としています。それはアッラーが自分たちの現実の中心であり、人生のすべての意味の源であるという意識です。また各人の高次の自己アイデンティティはウンマ(イスラーム教信者の共同体)として知られるムスリムのコミュニティの一員であることに由来するという意識です。

巡礼者はまた、サファーとマルワという名前の小さな丘の間を7回往復するサイーを実行し、ハージャルが命を与える水と食べ物を必死に探し求めたクルアーンの物語を再現します。

メッカ巡礼(ハッジ)に必須の7のステップは次のとおりです。

ステップ1 - イフラムを身につけと意図を持つ

ステップ2 - 「テントの町」とも呼ばれるミナーに滞在する

ステップ3 - ミナーからアラファへ、ズー・アルヒジヤ月9日目

ステップ4 - ムズダリファ、タワーフ・アル・イファーダ、サイー

ステップ5 - ラミー(悪魔に石を投げる)

ステップ6 - ナハル(犠牲屠畜)、ハルク(剃髪)、タクスィール(断髪)

ステップ7 - タワーフ・アル・ワダー(別離の周礼)

❖ ナハルとは動物を犠牲にすることです。

❖ ハルクとは男性の頭を剃ることで、ウムラ(メッカ小巡礼)またはハッジ(メッカ大巡礼)を終えた時に行なう義務的な儀式です。

❖ タクスィールとは、頭髪を少なくとも1センチトリミングすることを指します。タクスィールは、ハッジを行なうかウムラ(イスラーム教の巡礼)を行なうかに応じて女性にも義務となります。

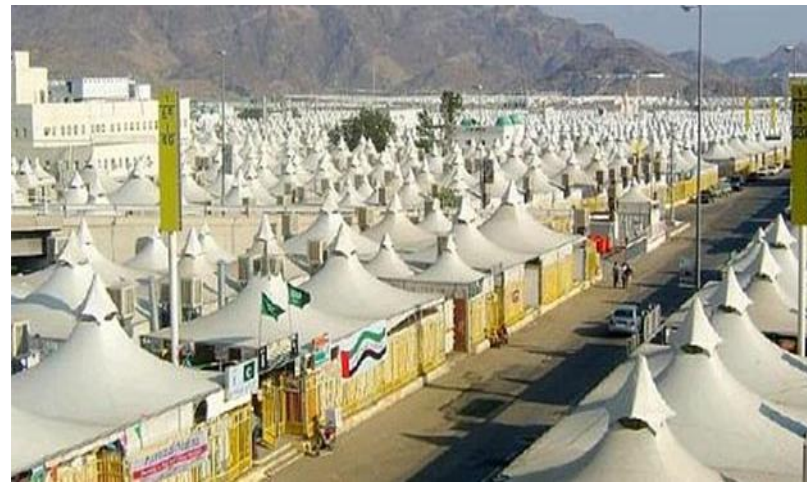
❖ タワーフ・アル・ワダーとは、メッカ巡礼を終えてメッカを離れる直前に巡礼者によって行なわれます。これは次の目的地に移動する前にメッカで行なわれる最後の儀式です。

❖ 注意点:

❖ 巡礼者がイフラムに入ると、とりわけ以下の行為が禁止されます: 1- 髪を抜くこと、または爪を切ること。ただし、意図せずに髪が抜けたりした場合、または忘れて、禁止事項を知らずに髪や爪を切ったりした場合は免除されます。



ステップ1 - イフラムを着て意図を持つ



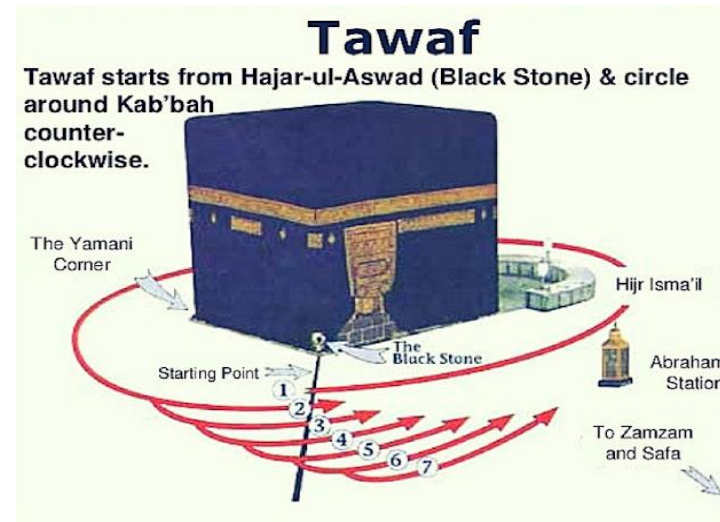
ステップ2 - テントの町ミナーに留まる



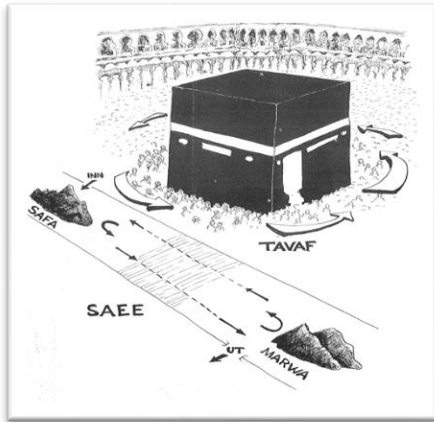
ステップ3 - ミナーからアラファ: ズー・アル・ヒジジャ月9日



ステップ4-1 ムズダリファで野営



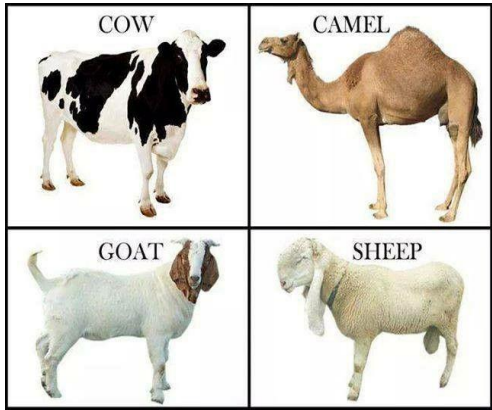
ステップ4-2 タワーフ・アル・イファーダ (大挙の周礼)



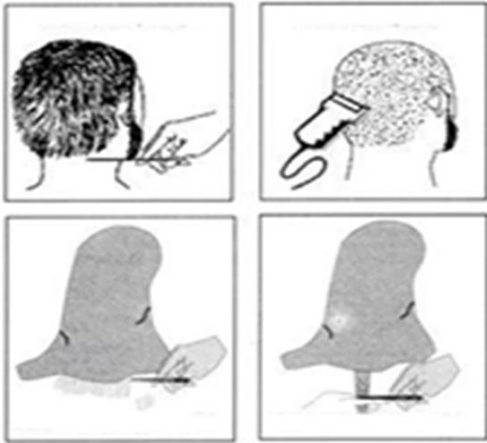
ステップ4-3 サイー



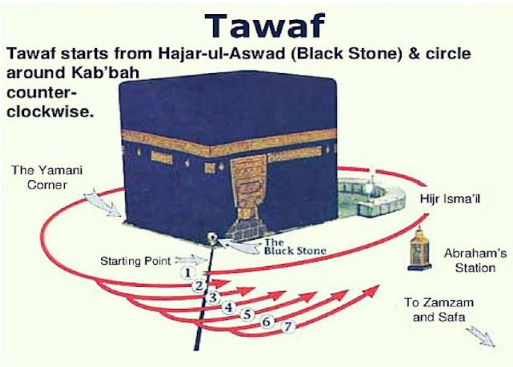
ステップ5 - ラミー(悪魔への投石)



ステップ6-1 - ナハル(動物の犠牲)



ステップ6-2 - ハルク(剃髪)とタクスイール(断髪)



ステップ7 - タワーフ・アル・ワダー(別離の周礼)



巡礼の完了- イフラムを脱いで普通のイスラーム的なドレスを着る

巡礼者のマディーナ訪問

ムスリム巡礼者は、伝統的にマディーナの預言者ムハンマドのマスジドを、メッカ巡礼の儀式の前後に訪れます。

ハッジ前後の数日から数週間で、多くの巡礼者が移動時間を有効に活用して、メッカの北440キロメートルにあるマディーナ市を訪れます。マディーナの人びとは、初期のムスリムコミュニティが強力なメッカのクライシ族によって迫害されていたときに避難所を提供しました。マディーナは成長を続けるムスリムコミュニティの中心地となり、預言者ムハンマドとその信者が長年にわたって住んでいた場所です。巡礼者はムハンマドが埋葬されている墓地のある預言者のモスクを訪れ、その他の古代のマスジドや、多くの歴史的な戦場地や墓地を訪れます。



「ハッジ」(メッカ大巡礼を行なった人の敬称)

巡礼者が故郷の愛する人への贈り物として記念品を買うことも一般的です。礼拝用の敷物、数珠、クルアーン、衣類、ザムザムの水が最も人気のあるアイテムです。

大巡礼の旅を終えて巡礼者が母国に戻るとき、彼らは精神的にリフレッシュされ、罪を赦され、白紙の状態で新たな人生を始める準備ができています。預言者ムハンマドはかつて信者たちにこう語りました。「アッラーの喜びのためにメッカ大巡礼を行ない、その間に邪悪な言葉を発せず、悪行を行わない者は、母親が出産した日と同じように罪から解放されてそこから帰ってくるだろう」

家族や地域住民は、巡礼者を家に迎え、旅の完遂を祝うためのお祝いを準備することがよくあります。このような集まりでは謙虚な姿勢を保ち、メッカ大巡礼から戻ってきた人たちには赦しを祈るようお願いすることをお勧めします。彼らはそうする立場にあるからです。預言者はこう述べました。「あなたが巡礼者(帰宅途中)に出会ったら、挨拶し、握手をし、家に入る前にあなたに代わってアッラーに赦しを請うように頼みなさい。彼の罪はアッラーによって赦されているので、彼の赦しの祈りは受け入れられます」

メッカ大巡礼を行なった人は「ハッジ」という敬称で呼ばれることが多いです。

ウムラ(小巡礼): عُمْرَة

ハッジ(大巡礼)は、イスラーム暦の特定の日に行なわれます。ただし、ウムラはいつでも行なうことができます。共通の儀式はありますが、ウムラは数時間以内に行なうことができます。一方、大巡礼はより時間がかかり、より多くの儀式が必要になります。

ムスリムは経済的・身体的余裕ができれば、すぐにウムラを行なうことをお勧めします。ただし、ウムラはスンナ(奨励)行為で、ハッジはファルド(義務)行為であるため、ウムラを実行してもハッジが免除されるわけではないことを知っておく必要があります。ハッジを行なう直前にウムラを行なうことも認められます。

ウムラの実施方法

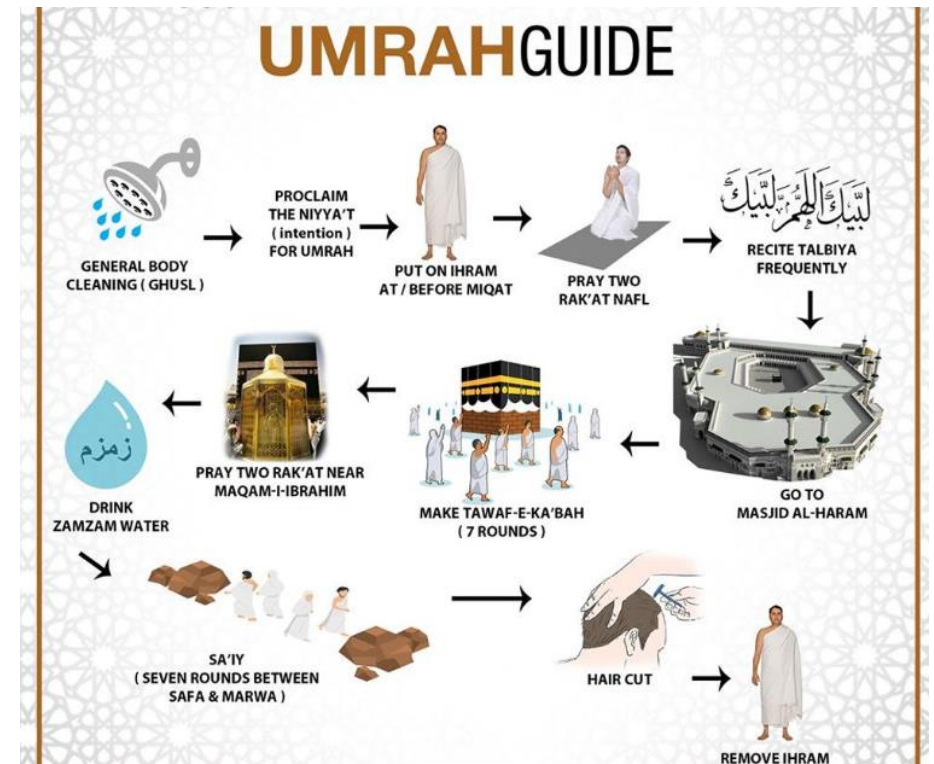
ステップ1 – イフラーームを身につける。ハッジやウムラを予定している人は、イフラーームは必要です。

ステップ2 – タワーフ・アル・ウムラ(ウムラの周礼)

ステップ3 – サイー

ステップ4 – ハルクまたはタクスィール

ステップ5 – イフラーームを脱いでウムラ終了となります。



イード・アル・アドハー عيد الأضحى (犠牲祭)

イード・アル・アドハーの日は、イスラーム太陰暦のズー・アル・ヒジャ月12月の10日にあたります。お祝いが行なわれる日は、合法的に新月が観察できるかどうかによって決まります。イスラームの重要な5本柱の1つであり、すべてのムスリムの義務である毎年恒例のメッカ大巡礼を記念して行なわれます。

イード・アル・アドハーの祭は、預言者イブラーヒームのアッラーへの献身と息子のイスマーイールを犠牲にする心を記念するものです。犠牲のまさにその瞬間に、アッラーはイスマーイールを羊に置き換え、彼の代わりに殺されました。

アッラーからのこの命令は、預言者イブラーヒームの意志を試すものでした。主の命令に疑いなく従うという決意です。

イード・アル・アドハーのお祝いはどこでも3日間続きます。クルバニ(犠牲)行為はイード礼拝後に行なわれます。イード礼拝は早朝、最も近いマスジドなどで集団で行われます。

クルバニ(犠牲)行為が行なわれるイード・アル・アドハーの祭りは3日間続きます。クルバニは、預言者イブラーヒームのアッラーへの犠牲について記念するために動物を犠牲として屠畜することで構成されています。これはウドゥヒーヤとしても知られています。動物犠牲の日はズー・アル・ヒジャ月の10日から12日までの3日間です。

犠牲動物は羊、子羊、ヤギ、牛、バッファローまたはラクダでなければなりません。羊、子羊、またはヤギは1匹単位で犠牲となります。一方で、牛、バッファローまたはラクダは7分割できます。それらの動物は、健康状態が良く、一定の年齢以上であれば、「ハラール」に配慮したイスラーム式で屠畜されます。

クルバニの肉は、1匹(頭)あたり3等分に分けられます。3分の1はあなたとあなたの家族のために、3分の1は友人のために、最後の3分の1は困っている人たちに寄付されます。

伝統的に、その日は家族、友人、愛する人たちとお祝いをして過ごし、多くの場合、新しい服や最高の服を着て、服装やプレゼントを贈ります。

